

保存版 函館市洪水ハザードマップ

松倉川・鮫川・常盤川・石川・久根別川 浸水想定区域図



このハザードマップは、台風や大雨等による河川のはん濫や土砂災害から、身を守るための避難行動や危険箇所について、お知らせするために作成したものです。災害時の情報収集や災害の特徴について正しい知識を身につけることは、適切な避難行動につながるから、日頃よりそれぞれの災害の危険性について、よく理解しておきましょう。

このマップで着色されていない区域も雨の降り方によっては、安全とは限りません。危険を感じたらすみやかに身を守る行動をしてください。

事前の心得

- ・日頃から自宅周辺で予測される災害の危険性を確認しましょう。
- ・災害や避難に関する情報の入手方法を確認しましょう。
- ・家族の安否確認方法、避難場所や避難経路等を話し合しましょう。
- ・地域で実施される避難訓練等に積極的に参加しましょう。
- ・避難情報が出された場合には、すみやかに避難してください。

気象警報と注意報の種類

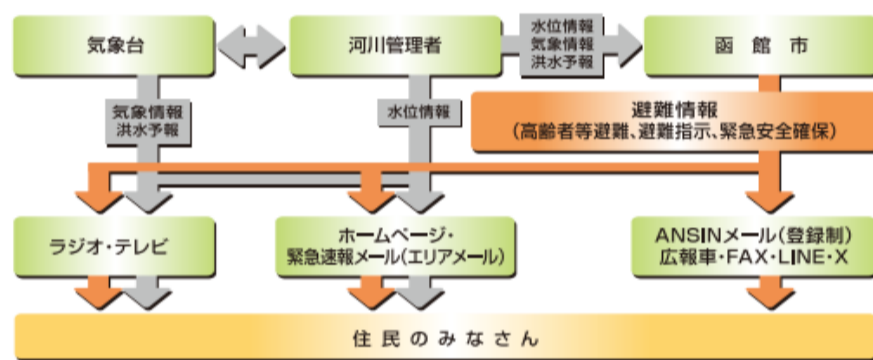
気象庁は、大雨や洪水などの気象情報によって災害が起こるおそれのあるときに「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。

危険度	種類	
高	大雨特別警報	台風や集中豪雨等により数十年に一度の大雨が予想され、重大な災害が起こるおそれ著しく大きいとき
↑	大雨警報	重大な浸水害や土砂災害が発生するおそれのあるとき
	洪水警報	河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な浸水害のおそれのあるとき
↓	大雨注意報	浸水害や土砂災害が発生するおそれのあるとき
	洪水注意報	河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による浸水害のおそれのあるとき

雨の強さと降り方 (1時間雨量: mm)				
やや強い雨 10以上~20未満 雨の音で話し声が良く聞き取れない。	強い雨 20以上~30未満 ワイパーを速くしても見づらく、側溝や下水、小さな川があふれる。	激しい雨 30以上~50未満 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	非常に激しい雨 50以上~80未満 マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	猛烈な雨 80以上~ 雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

洪水情報の伝達ルート (土砂災害情報も同じ)

異常気象の情報や避難情報等は、下図の伝達ルートで住民のみなさんへお知らせします。また、情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、すみやかに避難しましょう。



避難行動ガイド

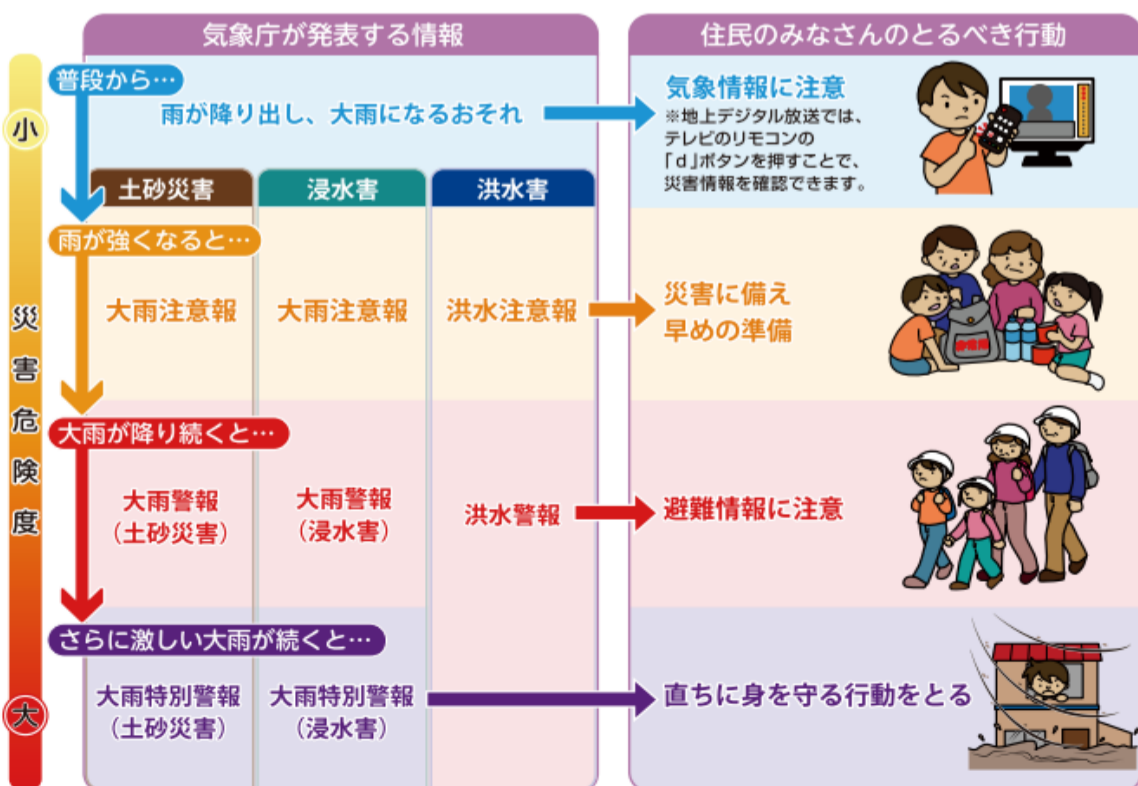
市では、みなさんの生命に危険がおよぶと判断した場合、「高齢者等避難」、「避難指示」、「緊急安全確保」を発令し、みなさんに避難を促します。避難指示などを発令するときは、様々な状況を総合的に判断して発令します。

避難とは

避難は、災害から命を守るための行動であり、避難行動には次のような方法があります。

- 指定緊急避難場所への移動。
- 浸水想定区域等内の自宅などから移動し、安全な場所への避難。(公園、親戚や友人の家など)
- 近隣の強固で高い建物などへの移動。
- 建物内の安全な場所での待避。(家屋内での垂直避難)
やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上の高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

大雨に関する気象情報とみなさんの行動



避難指示などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。



※「自主避難」とは、避難指示などを待たず、自主的に親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを携帯するようにしてください。

市が発令する避難情報

高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難に時間を要する高齢者や障がいのある方等は危険な場所から避難する。 ・その他の人は、避難の準備を整える。または、自主的に避難する。
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所から全員避難する。
緊急安全確保 (必ず発令される情報ではない)	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅や近くの建物の少しでも安全な場所に移動するなど、身の安全を確保する。